

北海道の着地型観光と産・学・官・市民連携

北海道地域観光学会 第1回全国大会
プログラム・発表要旨集

北海道
地域観光
学会

【テーマ】『北海道の着地型観光と産・学・官・市民連携』

【日時】2014年7月26日(土) 9:00 開場

【会場】北海商科大学

062-8607 札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
札幌市営地下鉄東豊線「学園前駅」4番出口直結

【参加費】無料

【主催】北海道地域観光学会
連絡先(細野) hosono@hokkai.ac.jp

【後援】北海道、札幌市、北海道観光振興機構、観光情報学会、観光まちづくり学会、北海商科大学
開発政策研究所、北海学園北東アジア研究交流センター 他

Society for Hokkaido Tourism Research

■ 大会会場 北海商科大学へのアクセス

- ・受付は4階です。
- ・駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
- ・昼食は最寄りの飲食店をご利用ください(ご参考:後頁の「昼食マップ」)。



■ 会員の皆さんへ

- ・当日、このプログラム・発表要旨集をご持参ください。
- ・2014年度学会費を受付でお納めください。

■ 学会発表の皆さんへ

- ・配布資料がある場合は印刷してご持参ください。
- ・持ち時間は、準備から発表、討論まですべて含めて20分以内に収めていただきます。時間超過は認められませんのでご注意ください。
- ・プレゼンテーション・フォーマットはWindows版PowerPointのみ対応しています。
- ・プレゼンテーション・ファイルはUSBメモリに入れて持参してください。
- ・持参のPCなどを使われる場合、ディスプレイのコネクタはアナログRGB[D-Subピン]のみ対応しています。

■ ごあいさつ

本学会の記念すべき第1回全国大会を来る7月26日(土)に開催する運びとなりました。開催内容はプログラムをご覧のとおり、「発表」・「基調講演」・「シンポジウム」・「学生が企画する観光商品企画コンテスト」と盛り沢山の内容となっています。また、当初の予想を上回る発表件数によって発表会場も2会場とせざるをえなくなるなど、プログラム委員会にとって嬉しい悲鳴(?)を伴うものとなりました。北海道観光に関する日頃の研究成果発表や、今大会のテーマである「着地型観光の創造と進化」について基調講演およびシンポジウムを通じて考える絶好の機会です。北海道観光振興を発展・進化させていくために多くの方々が結集し、相互に研鑽を深めることを期待しています。

北海道地域観光学会
会長 伊藤昭男

■ プログラム

09:00	受付開始	北海商科大学校舎 4F
09:25	発表	午前の部前半(A/B会場6件)
10:20	休憩	
10:25	発表:	午前の部後半(A/B会場6件)
11:30	休憩・昼食	
	(12:00)	特別企画 「第1回学生が企画する北海道観光商品企画コンテスト」
13:00	開会式	
13:30	基調講演	オーストラリア・クイーンズランド州政府観光局 日本局長 西澤利明さん 『これからの観光戦略 Towards 2020』
14:40	休憩	
14:45	発表	午後の部(A/B会場8件)
16:05	休憩	
16:10	シンポジウム	『北海道の着地型観光と産・学・官・市民連携』 話題提供：オーストラリア領事 イアン・フレイジアさん 公益社団法人 北海道観光振興機構ご当者 北海商科大学 教授 中鉢令兒さん
17:40	総会	
18:05	移動	
18:40	懇親会	紅燈籠(ホンタンロン)南5条店 Tel. 011-512-5535 南5条西3丁目ラマダホテル 2F

■ 発表要旨

午前の部

■ 会場 A

AA01 観光振興政策における地域間の競争と北海道ドライブ観光の推進

国城健斗(北海商科大学商学部観光産業学科 4 年)

国内でも有数の観光地として数えられ、近年、近隣アジア諸国からのアウトバウンド観光も盛んな北海道だが、抱える問題点も多く、まだまだ「一流」の観光地と呼べないのが現状だろう。観光、周遊しやすい北海道にするためには、地元民の観光振興への参加が不可欠である。本発表では、道内の地域間による競争と連携、ドライブ観光の推進という見方で、これらの問題について考察する。

AA02 駅前乗り入れを考慮した函館市電の活性化に関する研究

高梨陽太郎(北海道大学大学院工学院 北方圏環境政策工学専攻)

2015 年度末に新青森～新函館間の北海道新幹線が開業する。函館市電は観光名所へのアクセシビリティが高く、路面電車自体の希少性という事もあり、観光活性化をもたらす可能性が大きいと考えられる。本研究では駅前乗り入れを含む函館市電の整備が開業効果を生かせるものと考え、観光客が使いやすい市電の在り方を求めることを目的とし、調査、分析を行った。その結果、属性毎の利用者特性を明らかにすることができた。

AA03 北海道におけるレンタカー利用者への給油情報サービスの必要性に関する研究

水内貴大(北海道大学大学院工学院 北方圏環境政策工学専攻)

北海道では都市間の移動に要する長い移動距離に対して給油所が少ない。実際に JAF の出動件数も増えている傾向にある。従って長距離運転者への給油情報の提供はとても重要であるといえる。

本研究では道内の旅行者へ向けてリアルタイムな給油情報を提供する新しい車内情報サービスについての検討を行った。

ネットアンケートにより道内レンタカー利用者の傾向を調査し、本情報サービスのニーズや利用者が求める利用条件を明らかにした。

AA04 小麦畑や牧場におけるインタープリテーション

—いただきますカンパニーを事例として—

唐箕環(北海商科大学大学院博士後期課程)

農業やその取り巻く環境について理解を深めることを目的にしたガイド事業が十勝地方で行われている。農家に代わって畑作地や牧場を、訓練を受けたガイドが案内するのである。季節ごとの収穫物に合わせてプログラムを変え、通年で案内できる仕組みにしている。また収穫物を活用した昼食なども提供し、観光活動の魅力を向上させている。大型リゾートホテルと提携して道外からの集客も図っている。

本論ではこのガイド事業をインタープリテーションとして位置づけ、農業観光におけるインタープリテーション導入の課題と可能性について調査を行った。

AA05 洞爺湖有珠山ジオパークにおける観光資源の時系列活用の在り方

菊地達夫(北翔大学短大部)

本発表では、洞爺湖有珠山ジオパークを事例として、関係自治体の観光入り込み数の動向や主な観光コースを取り上げ、内容と課題に触れつつ、その課題解決に向けた観光コースを開発しようとするものである。

具体的には、網羅的、局地的な観光コースとは異なる時系列の火山遺構・火山資源を巡る内容を示そうとするものである。

また、自然現象の偉大さ(火山活動)、自然災害の怖さ(噴火災害)、自然現象の恵み(景観・温泉・農業等)といった内容構成にも注視する。

AA06 知床世界自然遺産化による観光スタイル変容の功罪

～個人型観光は持続的か～

藤崎達也(稚内北星大学)

「観光客が増えると自然が破壊される」と言った論説を耳にしますが、果たしてそうでしょうか。もちろん負の効果があることは否めませんが、少なくとも観光を研究するものは単純な風潮に流されてはいけません。発表ではそのような文脈の一つといえる「団体ツアーはダメ・個人ツアーはイイ」ということについて、現場で事業を行ってきたものとして現場の実情をお示しし、観光地域や事業者の取り組みを改めて評価する機会にしたいと思います。

■ 会場 B

AB01 中国と北海道の MICE における市民の役割

中井龍(学校法人北海学園)

通常の観光と違い、多くの集客、地域振興、経済効果が望める MICE は世界各地で注目度の高いビジネスイベントです。北海道においても官民一体となり、MICE 誘致が積極的に行われています。口頭発表では、私の留学先であった中国と北海道の MICE 誘致において、一般市民と企業が享受できるメリット、加えて一般市民が上記のイベントに関わることによるメリット、将来性等についてまとめ、発表したいと考えています。

AB02 北海道における観光と MICE

望月康広(公益財団法人札幌国際プラザ)

国際会議や企業による報奨旅行などの MICE(マイス)は、一般的な観光とは異なり、ビジネスイベントの性質を有するが、集客促進において MICE は観光を補完する重要な特性も有しており、観光と両輪をなす重要な部分を担っている。国際的な誘致競争が激化する中、北海道や札幌においても誘致・開催支援などの取組を強化していることから、札幌を中心とした北海道における MICE の現状や可能性について、国内外の状況も交えながら報告する。

AB03 札幌市における民間企業のインバウンド旅客研究の取り組みとその活動について

加藤由紀子(北海商科大学)、長井伸樹(株式会社エスコム)

2013年に海外から日本を訪れた外国人旅行者数は1036万人で、道内はその1割を占める。

外国人を受け入れる企業や団体は、もはや企業や業界単位での取り組みでは対応しきれず、連携を求めて協議会なども多数立ち上がっている。しかし、現場に近い担当者レベルで連携する例は少ない。

一衣帯水友好会は2009年に東京で始まった民間企業の有志の勉強会であるが、2012年「日中観光振興セミナー in 北海道」開催を機に北海道部会が立ち上がった。2か月に一度開かれる勉強会では、業種を超えて意見交換が活発に行なわれている。今回はその中から始まった「現場担当者が語る訪日外客の現状」を報告する。

AB04 福建省における向莆鉄路の開通による観光客誘致

郭倩(北海商科大学大学院博士後期課程)

都市観光の発展の諸要因として、交通機関の成熟化が重要となる。向莆鉄路が開通後、福建省は従来のグルメ旅行のディスティネーションとしてだけでなく、交通の利便性の向上によって、豊かな自然環境と新鮮な空気を魅力とする新しいディスティネーションとしても注目されている。本研究では、その新たな集客力と、短時間の来訪可能性によってマーケットの広域化が進むことにもない増加した誘客力に関して考察する。

AB05 中国訪日指定旅行社における広告メッセージの分析

ウヤチュン(邬雅琼)(北海商科大学大学院博士後期課程)

訪日中国人観光客数が飛躍的増加している現状の中、顧客がどのような行動パターンと欲求を持っているのか、これまでの研究では明らかにされていない。訪日に関する関連政策により、中国人観光客は、中国の訪日指定旅行社を通じて、ツアー商品を購入して、訪日観光を行うのが一般的な形である。訪日指定旅行社のツアー商品の特徴分析は観光客の動向を把握するには、極めて重要である。本報告は、中国の代表的な訪日指定旅行社の中、インターネット通販を行っている旅行社 10 社を中心に、2013 年 8 月と 9 月、計 927 ツアー商品の広告メッセージを分析し、ツアー商品の特徴と顧客の欲求を明らかにするものである。

AB06 ロシア人観光客の現状と展望

望月喜市(ロシア極東研)

13 年の訪日客数は 1036 万人に達した。政府は 20 年をめどに、訪日外国人を 2000 万人にする予定である。訪日観光客増加の趨勢をロシアも一定程度反映してはいるが、その人数は 4 万人弱で、訪日観光客全体の 0.5%、順位では 17 位に過ぎない。ロシア人の日本ツアーが振るわない理由は何か？ビザ問題、宣伝不足、滞在コスト高、ツアーガイド料金高その他が指摘されている。その対策としてどのようなことが考えられるか。報告で考えてみたい。

■ 会場 A

PA01 地方都市における中心市街地活性化のための交流複合施設の影響に関する研究

鈴木由花（北海道大学大学院工学院 北方圏環境政策工学専攻）

現在多くの地方都市での中心市街地空洞化への対策として、中心市街地活性化計画を作成し、集約型都市構造を理想とする都市の開発が進められている。本研究では岩見沢市中心部に整備された市民交流複合施設利用者の個人個人の行動の変化に着目することにより、心理面を含む施設の影響や役割を分析し、多面的な効果について明らかにした。

PA02 観光と産業を連携した地域経済のイノベーションについて

深澤 史樹（酪農学園大学）

観光ビジネスは一般的に多岐にわたる産業から成り立っているため、地域経済の活性化に大きな原動力として発揮される。そのためには、地域の観光ビジョンをその地域全体で共有するなど地域一体となって取り組むことや地域資源を掘り起こすことが重要となる。そこで、本報告では、北海道における「食産業」と「観光事業」を結びつけて、ガストロノミーとフードツーリズムの関係を整理し、観光と産業を連携した地域経済の新局面について考察する。

PA03 DMO における財源のあり方について

ーヨーロッパにおける研究からみた政策的インプリケーションー

伊藤昭男（北海商科大学）

地方においてもインバウンド観光が進展する中、地方において観光振興効果を高めていくためには観光イノベーションが不可欠である。特に地方のステークホルダーの諸力（マンパワー・資金・知識など）を集結するとともにそれらの利害関係調整を図る DMO (Destination Management Organization: 日本の場合で言うと観光協会、商工会、温泉旅行組合など) の制度的イノベーションは今後地域が人口減少に直面することも含めて極めて重要な課題であるといえよう。DMO の制度的イノベーションを図るための根幹的課題はいかに財源を確保するかであり、本研究はその財源のあり方を探求するファースト・ステップとして、ヨーロッパにおける研究からみた政策的インプリケーションを考察する。

PA04 ホテル文化による地域再生の一考察

—「産学官民」から「産学官民＋クリエイター」へのパラダイム—

中鉢令兒（北海商科大学）

1990年代ブレア首相は、クールブリタニア(Cool Britannia)を国策とした。カッコいい文化で人を呼ぼうと言った政策は、成熟し、斜陽化が始まった工業国イギリスの新しい戦略であり、ヨーロッパでの地位確保のセーフティネットでもあった。最近同様な戦略がクールジャパンとして進められているが、境港や直島では、1990年代初頭に既に実践が進められ、今日成功を収めている。特に直島では、過疎地対策としても有効に機能し、箱もの行政を文化行政の成功事例によって根底から覆した。そこには、ベネッセハウスや直島役場のクリエイターとの協働が不可欠である。そしてクリエイターとの協働は、現代芸術しか出来ない点も見逃せない。こうした事例を基に、「産学官民＋クリエイター」へのパラダイムについて考察をする。

■ 会場 B

PB01 北海道における野外彫刻の概況と観光資源化について

橋本信夫（札幌彫刻美術館友の会）、丹羽貴彦、久本由美子、大内和、
奥井登代、細川房子

当会では1987年以来、全道各地の野外彫刻を調査し、これまで約2,500作品の写真と関連資料を収集した。現在これらの彫刻資料はすべてデータベース化され、北海道における野外彫刻の基礎台帳（彫刻戸籍）として利用可能となっている。さらに彫刻の形状、設置場所や制作経緯などの基本情報を地図上でクラウド技術により検索できる彫刻地図コンテンツを制作し、ロードナビを基に地域観光、郷土史や美術教育などへの活用を図っている。

PB02 HTML5 を用いた簡易観光サイトの制作—札幌観光を例として—

大堀隆文(北海道科学大学)、木下正博、西川孝二

インターネット上には文字、画像、動画、音声からなる観光情報が満ちあふれている。しかし、それらは一元化されてなくユーザが欲しい情報を見つけるのは困難であった。本研究では、文字、画像、音声の観光情報を一元化し、ユーザが欲しい情報を素早くつけることのできる観光サイトの構築法を述べる。サイトはマルチメディア対応が容易なHTML5言語を用い、札幌市内の主要観光地を文字と画像と音楽からなるスライドショーで紹介する。

PB03 すべてが禁止：インバウンド旅行者のモバイル事情

～「情報の命綱」公衆 Wi-Fi の普及の要点～

細野昌和（北海商科大学）

一時滞在の外国人旅行者、すなわちインバウンド旅行者は、わが国でモバイル通信を行うことは原則すべて法律で禁止されている。日常欠かせないだけでなく、旅行の際にこそ力を発揮するスマートフォンでの通信は、インバウンドには許されていないのだ。この状況の改善のために、公衆 Wi-Fi の活用が叫ばれているが、現実的な普及を阻害するいくつかの盲点が存在する。それらを指摘することで、「情報の命綱」である公衆 Wi-Fi 普及のあり方を考察する。

PB04 ブロードバンドもない過疎地域で実現した観光と防災のための公衆 Wi-Fi

～初山別村の事例から～

志田雅章（株式会社恵和ビジネス）

2020 年の東京オリンピック開催が決定後、観光利用のための公衆 Wi-Fi がにわかに話題になっています。多くは都市部での話題ですが、情報の少ない地方こそ公衆 Wi-Fi の活用が望まれます。また、地方では災害時（雪害等）に孤立した際、村民・旅行者の安全確保に必要な情報伝達とコミュニケーション手段の確保が、緊急の課題となっていました。

これらの課題を解決するため、実際にブロードバンドの行き渡っていない地方で公衆 Wi-Fi を構築した初山別村の事例についてご紹介させていただきます。

■ 懇親会場マップ

紅燈籠(ホンタンロン)南5条店 Tel. 011-512-5535

南5条西3丁目ラマダホテル2F

(札幌市営地下鉄 豊水すすきの駅 4番出口からそば)

